

～「本のまち」から～

聖籠町立図書館通信

2017. 11

No. 11

2017年11月24日発行

編集・発行 聖籠町立図書館

URL <http://www.lib-seiro.jp>

MAIL info@lib-seiro.jp

うちどく 子どもと一緒に「家読」しよう！



「家読（うちどく）」とは、「家庭（家族）読書」の略称で、家族と一緒に本の世界を楽しみ、家庭でのコミュニケーションを増そうという運動です。読み聞かせや、本を参考に家族で料理をしたり、同じ本を読んで感想を言い合ったり…本は人と人をつなぐ方法としてもおすすめです。「我が家の家読ルール」を決めて、ぜひ楽しんでみてください。

家読に期待される効果

家族が今、何に興味があるのか分かり、会話が增える

親が本を読む姿を見て、子どもに本を読む習慣がつく

本を通して新しい発見がある

家読のことで悩んだら

聖籠町立図書館では、家読におすすめの本を紹介するコーナーがあります。ぜひ、職員にもご相談ください！



「うちどくノート」を活用しよう！

「うちどくノート」とは、読書の記録ができるノートです。中学校に上がる前までのお子さんに、聖籠町の各教育施設から読書旬間中に配布されます。

保護者の方の読み聞かせ記録、お子さんが自分で書く楽しい読書日記、親子での読書感想の交換日記など、使い方は様々！

家読をより楽しめるノートで、読書の思い出を残してみませんか？

「秋の夜長に」

今年のノーベル文学賞を日系英国人カズオ・イシグロ氏が受賞することに決まり、町立図書館でもミニコーナーを設けました。すでに作品を読まれていた方も少なくないと思いますが、これを機に作品に接していただければ幸いです。

さてスマホなどインターネットにより大量の情報を手軽に享受できる社会になりましたが、本には匿名でない作者が責任をもって語りかけてくれる「信頼性」があり、本の持つ価値はこれからも変わらないものと考えます。

生涯を通して本に親しみ続けるためには子どもの頃からの習慣づけが重要です。家庭における子どもの読書環境づくりには、幼少期における「読み聞かせ」や大人が読む姿を子どもに見せる「読者の役割」が大切です。町立図書館でも家族で本を読む家読（うちどく）をお勧めしています。

ご多忙な毎日と存じますが、夕食後や就寝前などに少し時間をつくり読書を楽しむのはいかがでしょうか。一人で読むのもよし、家族と時間を決めて読むのもよし、どんな本があるかなど、ご相談は気軽に図書館カウンターにお声がけください。

館長 高野 聡

知って得する図書館の使い方！

? レファレンスサービス（調査相談） ?

「レファレンスサービス」は、簡単に言うと「図書館が調べもののお手伝いをするサービス」のことです。

- ・テレビで紹介された本が読みたいけど、タイトルのメモをなくしてしまった…
- ・結婚式でスピーチを頼まれたけど、何を話せばいいのか分からない。

など、普段の生活で感じるちょっとした疑問で構いません。

図書館と一緒に資料や情報をお調べするので、いつでも相談ください！



たとえば…



町制施行 40 周年の式典で「百合若大臣」の着ぐるみが登場したけど、「百合若大臣」や「緑丸」ってどんな由来があるの？



回答

百合若大臣・緑丸と聖籠町について書いている資料は4冊ありました。

「聖籠町史 通史編」

百合若伝説、聖籠との関係を詳しく紹介

「聖籠町史 資料編3」

室町頃の幸若舞「百合若大臣」の台本あり

「せいらうまちの 文化財と昔ばなし」

読みやすい百合若伝説あり

「聖籠町の すがた」

小学校社会科の副読本で子供向け

百合若大臣のことが書いてある資料のうち、2冊を紹介します。

「舞の本を読む」

幸若舞の台本の現代語訳と挿絵あり

「百合若大臣」

幸若舞の台本をもとにした絵本

そのほかの絵本やDVDなどにも載っています。
聖籠町の緑丸は鷹ですが、キジや鳩として登場する資料もありました！



ただし、宿題やクイズの答え、美術品の鑑定、個人のプライバシーに関係する質問など、お答えできないものもあります。ご了承ください。

